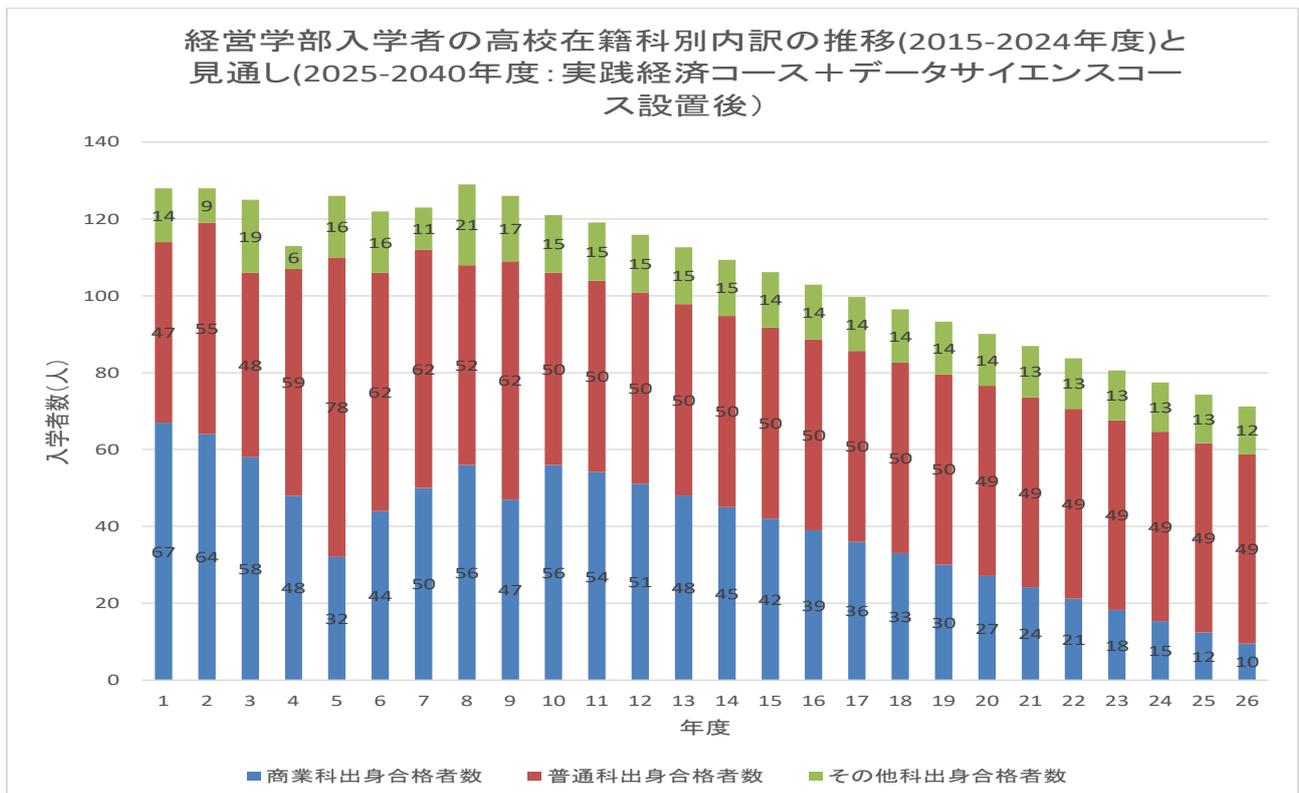
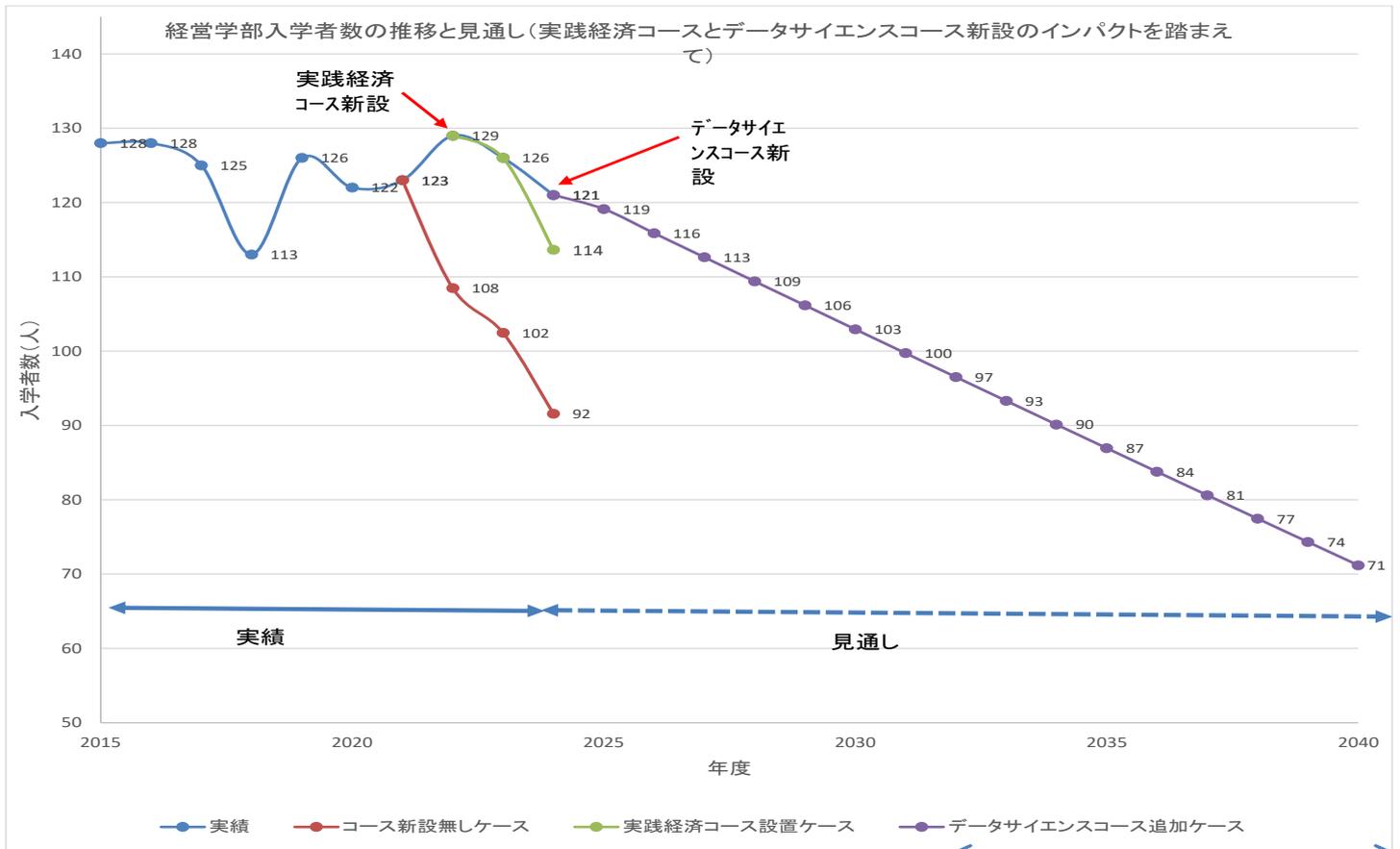


経営学部入学者数の推移と将来推計

～実践経済コース及びデータサイエンスコースの新設インパクト分析を踏まえて～

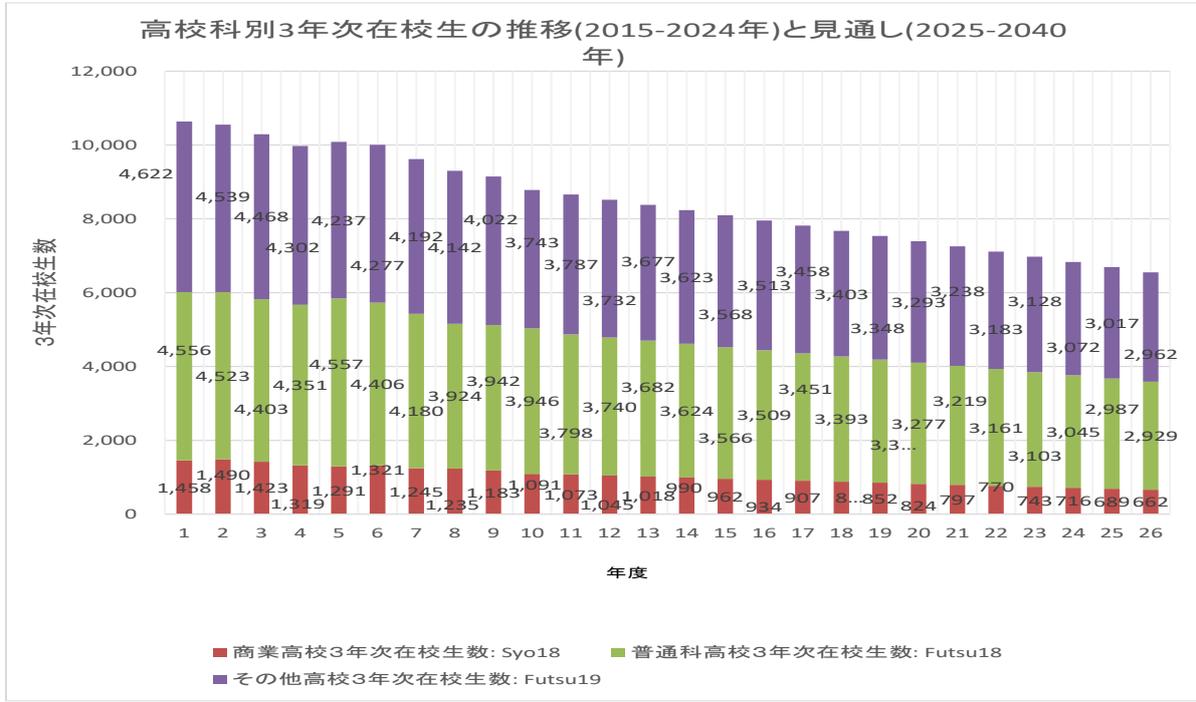
【入学者総数の推移と将来推計】



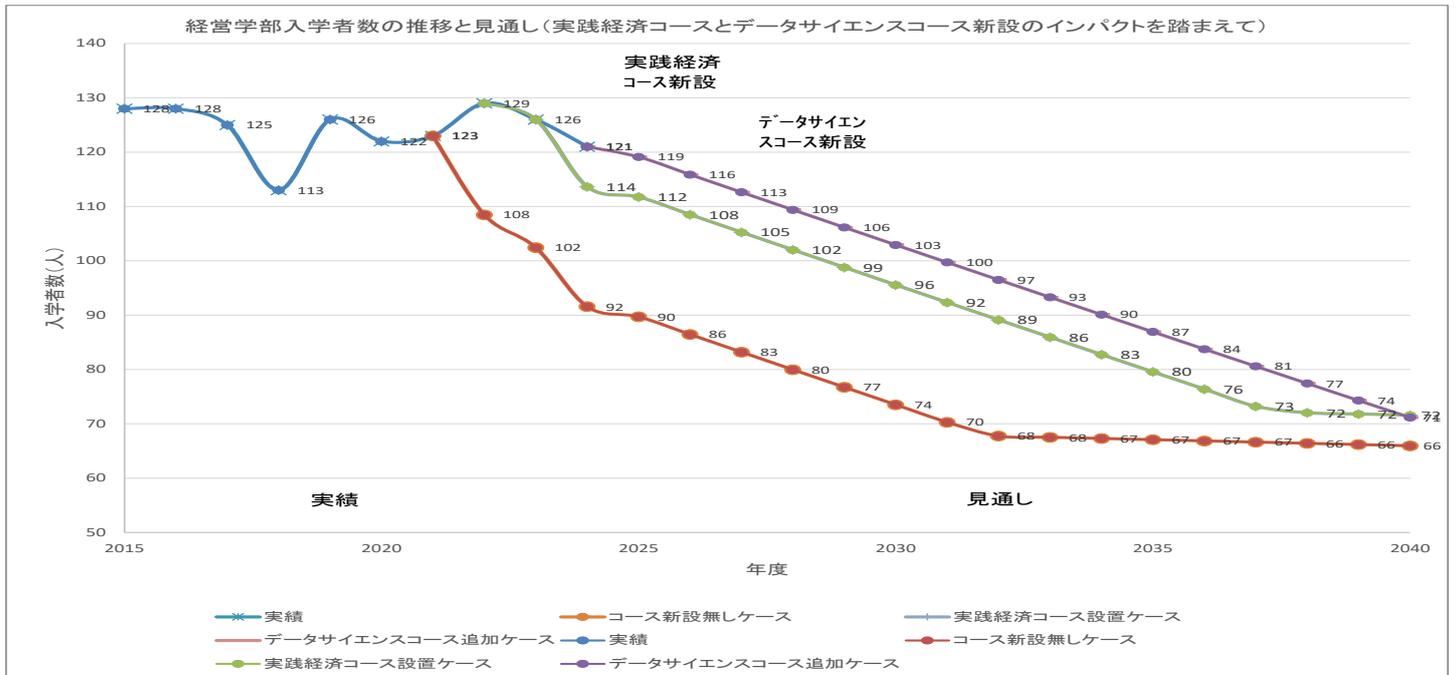
実践経済コース及びデータサイエンスコース設置のインパクト分析結果（入学者）

コース区分	高校科別入学者ベース			合計
	商業科（人）	普通科（人）	その他科（人）	
実践経済コースインパクト(2022-2023)	16.4	-1.3	7.0	22.0
+データサイエンスコースインパクト(2024)	17.3	-7.0	-2.9	7.4
実践経済+データサイエンスコースインパクト(2024以降)	33.7	-8.3	4.1	29.4

注）2024年度以降（両コース新設後）のインパクトは、当該推計手法はコース個別にインパクトを評価する構造になっていない。従って、2024年度以降のインパクトは合計値（29.4）見ることが適切である（コース単独のインパクトを計測するワルではない）。

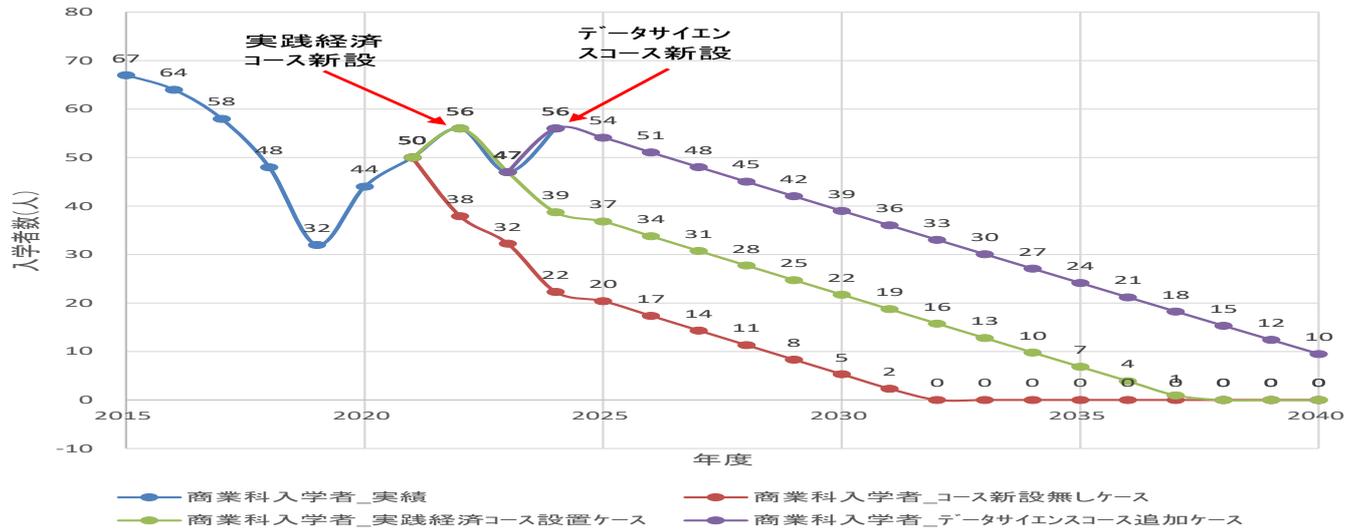


(参考： コース新設無しケース及び実践経済コース新設のみケースの将来推計も付加)

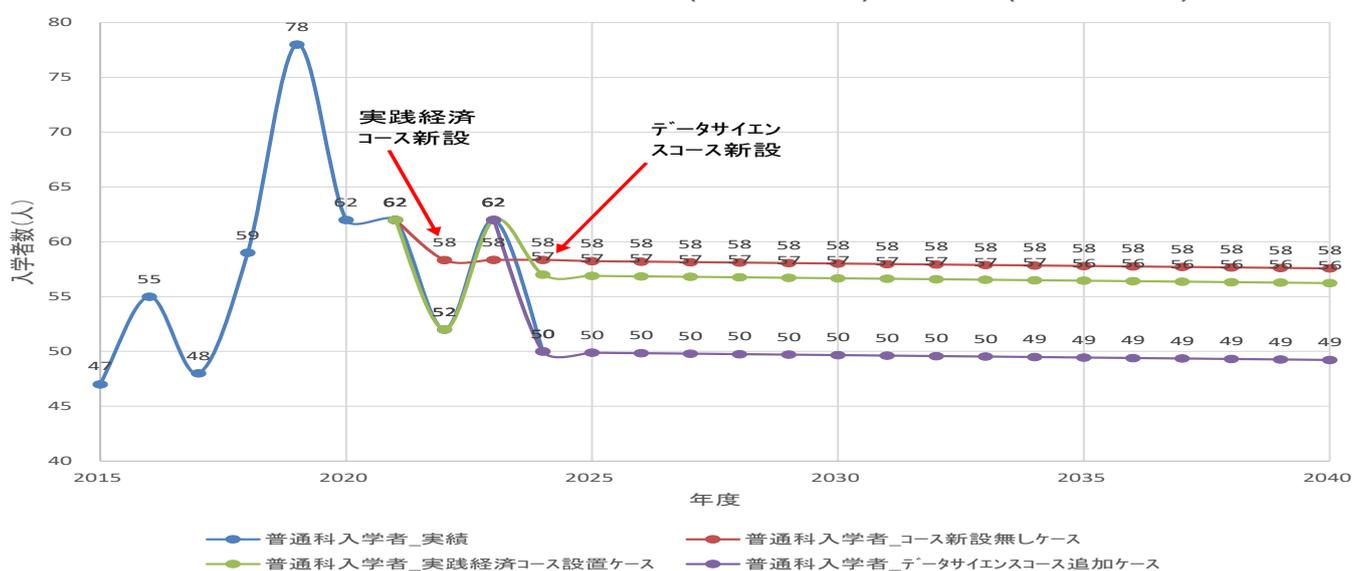


【高校科別（商業科・普通科：その他科）入学者数の推移と将来推計】

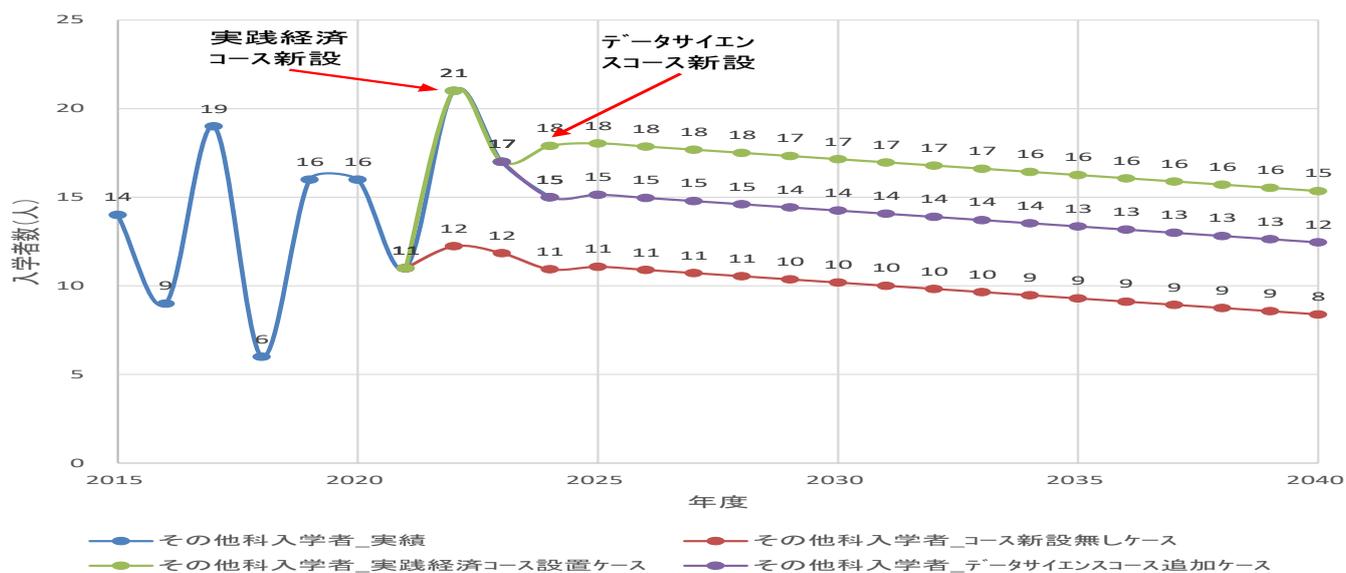
商業科からの入学者数の推移(2015-2024)と見通し(2025-2040)



普通科科からの入学者数の推移(2015-2024)と見通し(2025-2040)



その他科からの入学者数の推移(2015-2024)と見通し(2025-2040)



【参考データ： 回帰式の精度、偏回帰係数の有意性の検定】

18歳人口と商業科3年次在校生の相関										
基本統計量										
変数	n	平均	不偏分散	標準偏差	最小値	最大値				
Pop18	11	9896.091	413431.891	642.987	8798.000	11051.000				
3rd commerce	11	1323.091	17503.491	132.301	1091.000	1498.000				
相関行列										
	Pop18	3rd commerce								
Pop18	1.000	0.886								
3rd commerce	0.886	1.000								
線形結合している変数 なし										
変数選択の方法 全変数										
変数選択結果 回帰式の精度 重相関係数										
R	修正R	決定係数 R2乗	修正R2乗	ダービン=ワ	AIC					
0.8859	0.8723	0.7848	0.7609	1.5976	93.5227					
回帰式の有意性(分散分析)										
要因	平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値					
回帰変動	137376.0818	1	137376.0818	32.8312	P < 0.001					
誤差変動	37658.8273	9	4184.3141							
全体変動	175034.9091	10								
回帰式に含まれる変数(偏回帰係数・信頼区間等)										
変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係	偏回帰係数の95%信頼 下限値	偏回帰係数の95%信頼 上限値	偏回帰係数の有意性の検定 F 値	偏回帰係数の有意性の検定 t 値	偏回帰係数の有意性の検定 P 値	目的変数との相関 単相関	目的変数との相関 偏相関
Pop18	0.1823	0.0318	0.8859	0.1103	0.2543	32.8312	5.7299	P < 0.001	**	0.8859
定数項	-480.8290	315.4319		-1194.3855	232.7275	2.3236	-1.5244	0.1618		0.8859

18歳人口と普通科3年次在校生の相関										
基本統計量										
変数	n	平均	不偏分散	標準偏差	最小値	最大値				
Pop18	11	9896.091	413431.891	642.987	8798.000	11051.000				
3rd general	11	4308.273	70607.218	265.720	3924.000	4603.000				
相関行列										
	Pop18	3rd general								
Pop18	1.000	0.833								
3rd general	0.833	1.000								
線形結合している変数 なし										
変数選択の方法 全変数										
変数選択結果 回帰式の精度 重相関係数										
R	修正R	決定係数 R2乗	修正R2乗	ダービン=ワ	AIC					
0.8327	0.8120	0.6934	0.6594	1.4033	112.7600					
回帰式の有意性(分散分析)										
要因	平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値					
回帰変動	489610.3685	1	489610.3685	20.3569	0.0015					
誤差変動	216461.8133	9	24051.3126							
全体変動	706072.1818	10								
回帰式に含まれる変数(偏回帰係数・信頼区間等)										
変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係	偏回帰係数の95%信頼 下限値	偏回帰係数の95%信頼 上限値	偏回帰係数の有意性の検定 F 値	偏回帰係数の有意性の検定 t 値	偏回帰係数の有意性の検定 P 値	目的変数との相関 単相関	目的変数との相関 偏相関
Pop18	0.3441	0.0763	0.8327	0.1716	0.5167	20.3569	4.5119	0.0015	**	0.8327
定数項	902.7248	756.2456		-808.0216	2613.4712	1.4249	1.1937	0.2631		0.8327

18歳人口とその他の科3年次在校生の相関								
基本統計量								
変数	n	平均	不偏分散	標準偏差	最小値	最大値		
Pop18	11	9896.091	413431.891	642.987	8798.000	11051.000		
3rd others	11	4269.727	62274.018	249.548	3743.000	4622.000		
相関行列								
	Pop18	3rd others						
Pop18	1.000	0.830						
3rd others	0.830	1.000						
線形結合している変数 なし								
変数選択の方法 全変数								
変数選択結果 回帰式の精度								
重相関係数		決定係数						
R	修正R	R2乗	修正R2乗	ダービン=ワ	AIC			
	0.8296	0.8085	0.6883	1.0996	111.5622			
回帰式の有意性(分散分析)								
要因	平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値			
回帰変動	428610.9354	1	428610.9354	19.8708	0.0016			
誤差変動	194129.2464	9	21569.9163					
全体変動	622740.1818	10						
回帰式に含まれる変数(偏回帰係数・信頼区間等)								
変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	偏回帰係数の95%信頼 下限値	偏回帰係数の95%信頼 上限値	偏回帰係数の有意性の検定 F 値 t 値 P 値	*:P<0.05 **:P<0.01	目的変数との相関 単相関 偏相関
Pop18	0.3220	0.0722	0.8296	0.1586	0.4854	19.8708 4.4577 0.0016	**	0.8296 0.8296
定数項	1083.3785	716.1726		-536.7165	2703.4734	2.2884 1.5127 0.1646		

商業科出身入学者数と商業科3年次在校生数、実践経済コース及びデータサイエンスコース設置インパクトの相関											
変数選択結果 回帰式の精度											
重相関係数											
R		決定係数									
	修正R	R2乗	修正R2乗	ダービン=ワ	AIC						
	0.8209	0.7147	0.6739	0.5108	1.9248	42.2881					
回帰式の有意性(分散分析)											
要因	平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値						
回帰変動	637.2010	3	212.4003	4.1323	0.0659						
誤差変動	308.3990	6	51.3998								
全体変動	945.6000	9									
回帰式に含まれる変数(偏回帰係数・信頼区間等)											
変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	偏回帰係数の95%信頼 下限値	偏回帰係数の95%信頼 上限値	偏回帰係数の有意性の検定 F 値 t 値 P 値	*:P<0.05 **:P<0.01	目的変数との相関 単相関 偏相関			
商業高校3年次在校生数: Syo18	0.1083	0.0312	1.3247	0.0321	0.1846	12.0809 3.4758 0.0132	*	0.4248 0.8174			
実践経済コースインパクト	16.4192	7.5060	0.7738	-1.9472	34.7857	4.7851 2.1875 0.0713		0.0539 0.6661			
データサイエンスコースインパクト	17.2835	9.5198	0.5332	-6.0106	40.5776	3.2961 1.8155 0.1194		0.1303 0.5955			
定数項	-95.8957	42.5957		-200.1237	8.3323	5.0683 -2.2513 0.0653					

普通科出身入学者数と商業科3年次在校生数、実践経済コース及びデータサイエンスコース設置インパクトの相関											
変数選択結果											
回帰式の精度											
重相関係数											
R	修正R		決定係数		R2乗		修正R2乗		ダービン=ΓAIC		
	0.2940 -		0.0865 -				1.4629 -				
回帰式の有意性(分散分析)											
要因											
平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値							
回帰変動	67.1356	3	22.3785	0.1893	0.9000						
誤差変動	709.3644	6	118.2274								
全体変動	776.5000	9									
回帰式に含まれる変数(偏回帰係数・信頼区間等)											
偏回帰係数の95%信頼区間											
偏回帰係数の有意性の検定											
*:P<0.05 目的変数との相関											
**:P<0.01											
変 数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	下限値	上限値	F 値	t 値	P 値	単相関	偏相関	
普通科高校3年次在校生数: Futsu18	0.0008	0.0327	0.0214	-0.0792	0.0807	0.0005	0.0233	0.9822	0.1915	0.0095	
実践経済コースインパクト	-1.3396	18.2944	-0.0697	-46.1043	43.4252	0.0054	-0.0732	0.9440	-0.2105	-0.0299	
データサイエンスコースインパクト	-7.0099	13.3237	-0.2387	-39.6119	25.5921	0.2768	-0.5261	0.6177	-0.2837	-0.2100	
定数項	55.3449	144.6752		-298.6625	409.3523	0.1463	0.3825	0.7152			

その他の科出身入学者数と商業科3年次在校生数、実践経済コース及びデータサイエンスコース設置インパクトの相関											
変数選択結果											
回帰式の精度											
重相関係数											
R	修正R		決定係数		R2乗		修正R2乗		ダービン=ΓAIC		
	0.5559 -		0.3090 -				3.3447 -				
回帰式の有意性(分散分析)											
要因											
平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値							
回帰変動	58.2187	3	19.4062	0.8944	0.4964						
誤差変動	130.1813	6	21.6969								
全体変動	188.4000	9									
回帰式に含まれる変数(偏回帰係数・信頼区間等)											
偏回帰係数の95%信頼区間											
偏回帰係数の有意性の検定											
*:P<0.05 目的変数との相関											
**:P<0.01											
変 数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	下限値	上限値	F 値	t 値	P 値	単相関	偏相関	
その他高校3年次在校生数: Futsu19	0.0033	0.0113	0.1835	-0.0243	0.0308	0.0838	0.2895	0.7819	-0.2389	0.1174	
実践経済コースインパクト	6.9606	4.9956	0.7349	-5.2631	19.1843	1.9414	1.3934	0.2129	0.4927	0.4944	
データサイエンスコースインパクト	-2.8951	6.8637	-0.2001	-19.6898	13.8997	0.1779	-0.4218	0.6879	0.0461	-0.1697	
定数項	-1.2653	49.3029		-121.9052	119.3747	0.0007	-0.0257	0.9804			

経営学部入学者数の推移と将来推計結果の考察

【客観情勢】

- 18歳人口減少加速
- 18歳人口減少に伴う影響
 - 大学受験生総数の減少 ⇒ 地方中小私立大学から国公立大学及び有名私立大学へのシフト（国公立大学等の難易度の低下（共通テストの最低点の引き下げ：最低点を引き下げない定数を確保できない状況の出現 ⇒ 本学でも令和6年度の普通科からの入学者数が50名と前年より12名減少した要因とも推察）
 - 高校進学者の商業科から普通科へのシフトが進展していること
 - 商業科のレベルの低下に伴い、商業科全体の大学進学率の低下をきたしていることも考えられること
- 従って、18歳人口減少は、重層的に本学志願者を減少させるベクトルが、想定以上に加速していくことが見込まれること（今回の見通し結果が明示）

【経営学部の対応状況】

- 実践経済コース及びデータサイエンスコースの新設
 - 分析結果によると実践経済コース及びデータサイエンスコース新設の効果は、大きいものがあったことが証明されたこと（実践経済コース新設効果：2022年度（21名増）、2023年度（24名増）、データサイエンスコース追加効果：2024年度（29名増）、データサイエンスコース追加単独効果（2024年度（7名） ⇒ 両コース新設なかりせば、入学者数の相当の減少が見込まれ、2024年前後には定数割れに追い込まれることも想定されたもの）

- 18歳人口の減少に伴う商業科在学者数の減少（普通科行へのシフトも合わせ技）、国公立大学及び有名私立大学の難易度低下に伴う同大学群へのシフト等の環境下（背景：18歳人口減少に伴い難易度を下げないと定員確保できない状況の発生）で、それなりに定数確保できてきたこと
- 前記の兆候は、既に法学部の志望者数に現れてきているものと推察されること（特待生の法学部への重点振り分けで定員確保を維持している状況）
- しかしながら、実践経済コース及びデータサイエンスコースの新設効果は、上記の環境変化に対応するには十分ではないこと ⇒ 2032年前後には、定員割れする見通しであること（定数割れ時期：コース新設無しケース(2025年度)、実践経済コース新設のみケース（2029年度））
- 従って、18歳人口減少及びその波及効果に対処していくには、これまでのコース新設だけでは不十分であり、エコノ・データサイエンス学科を新設し、まず学科内における文理融合・学際化を実践することで、文理融合・学際化の必要性・重要性を教員から学生に認識させることができるフレームワークを形成し、真のドライバー（中核）とならしめることが肝要であること
- その上で、経営学部全体の文理融合・学際化を進めることで、市場の横展開（経済学分野及びデータサイエンス分野）を目指すとともに、経営学部全体の魅力度を上げ波及効果を高めていくことが求められている状況にあること